談論風発
INTERVIEW

宮坂 久美子
MIYASAKA Kumiko

日本航空
常務執行役員 西日本支社長

「移動」と「つながり」のチカラで心はずむ社会・未来の実現をめざして

～これからの航空会社に求められる役割～

コロナ禍を経て世界の人の動きは再び活発化しています。政府が策定した「明日の日本を支える観光ビジョン」では、2030年に訪日外国人旅行者数6,000万人という目標が掲げられており、航空需要はますますの拡大が見込まれています。一方、日本はというと、人口減少等の課題が顕在化するなかで、AIをはじめとする先端技術の進展や働き方改革により社会環境や価値観が変化し続けています。JALグループとしてこうした変化に対応しつつ、コロナ禍での経験もふまえ、リスク耐性の高い収益構造を実現し、持続的な成長を続けていくために事業構造改革を推進しています。基幹事業である、フルサービスキャリアや貨物郵便に加え、LCCおよびマイル・ライフ・インフラなどの分野の収益も増やすことで、より高い安定性を実現する取り組みを進めていくこととしています。

また、JALグループは、長期ビジョン「JAL Vision 2030」において、「安全・安心な社会」と「サステナブルな未来」をめざすべき姿としています。ビジョン実現に向けた取り組みの中心となるのがESG戦略であり、①「関係・つながりの創出（「人・モノの移動」「人・モノのつながり」を増やし、関係人口を拡大）」、②「GX戦略（2050年度CO_2排出量実質ゼロの実現に向けた環境対応）」、③「人的資本経営（多様な人財が多様に活躍できる環境・文化を醸成）」を中長期的に取り組む3つのテーマに掲げ、推進しています。

大阪・関西地区でも「関係・つながりの創出」のため、グループが持つノウハウやアセットを生かし、社会課題の解決、地域の活性化に向けて、「ソリューション営業」に取り組んでいます。これは、接客や安全に関するスキル、グローバルな視点のほか、国内外の路線ネットワーク網など、われわれが持つ強みを多様に組み合わせ、ソリューションを提案していくことで、お客さまや地域・企業といった社会の課題解決に貢献し、社会と共に事業の発展をめざしていく取り組みです。紀伊山地の霊場と参詣道を訪れるインバウンド客の誘致を、和歌山県・奈良県・三重県の自治体と協力して進める取り組みなどはその一例です。各自治体と密に連携を取りながら新たな観光ルートを創造し、さらなる誘客につなげていきたいと考えています。また、こうした人流の促進を通じた地域課題の解決に加え、モノのつながりを通じた地域課題の解決として、地域産品を生かした商品の販売企画にも取り組んでいます。兵庫県豊岡市と進めている事業では、大阪国際（伊丹）空港とコウノトリ但馬空港とを結ぶ路線を活用し、地元の食材を空輸で大阪の飲食店に届けています。

移動を通じた関係・つながりを創出するソリューション営業は、私が副委員長を務める関経連の都市・観光・文化委員会の活動との親和性が高いと感じています。弊社だからこそできることがあると思いますので、その部分はしっかり担っていきたいと考えています。

開幕まで半年を切った大阪・関西万博には国内外から多くのお客さまに安心して来ていただけるよう、送客・誘客に取り組んでいます。また、機運醸成の一環として、国内線と国際線に1機ずつ「JAL ミャクミャクJET」も運航しています。万博に来られたお客さまには、大阪・関西地区のすばらしさを感じていただくとともに、大阪・関西を起点に日本各地へも足を延ばしていただく機会を創出していくことで、「移動」と「つながり」のチカラで心はずむ社会・未来の実現につなげてまいります。（談）